

## 「祝福された奉仕者」

### 創世記 24 章 19～21 節

聖学院幼稚園・小学校チャプレン 中村 謙一

イエス様の民、イスラエルは、アブラハム、イサク、ヤコブから始まりました。今日は、アブラハムの子イサクの妻となるリベカの話です。リベカはイサクと結婚してヤコブを産みました。そしてヤコブの子、ユダの家からあのダビデ王、そしてイエス様のお父様ヨセフが生まれました。イエス様はユダ族出身でした。従って、ヤコブがリベカから生まれなかったら、ダビデ王も、クリスマスもなかった、と言えるでしょう。

リベカは神様から祝福された女性でした。聖書が語るリベカの素晴らしさとは、心の優しい奉仕者(仕える人)であった、ということでしょう。イエス様がお生まれになる約2600年前、神の民イスラエルの最初の人アブラハムは、主なる神様にお従いして祈り導かれて、故郷のウルを出てカナンという土地へやって来ました。カナンの土地は、神様がアブラハムに約束した土地でした。そして、アブラハムと妻サラには約束の子イサクが授けられました。イサクはやがて大人になりました。アブラハムは自分の召し使いに、故郷ウルへ戻ってアブラハムの親戚の中から、誰かイサクの嫁を探して見つけるように遣わしました。アブラハムの故郷とは、現在のイラク共和国北西部にある、ユーフラテス川の向こうのカルデア人のウルでした。

ウルに到着したアブラハムの召し使いは、主なる神様に祈りました。ウルの井戸の水をくみに来る女性たちの中から、イサクの花嫁を見つけさせてください！召し使いは心から神様に祈り井戸で待ちました。昔は、井戸の水をくむのは女の人の仕事でした。女の方は、必要なら1日に何度も井戸へ行って、カメの中に水を満たし、家まで運ばなければなりません。これは大変な仕事でした。水を満たした水ガメは重かったのです。それは、肩も腕も、腰も足も痛くなるほどのキツイお仕事でした。召し使いは神様に願い、自分と自分が連れて来ているラクダにも水をくれた女性をイサクの花嫁とさせてくださるよう祈りました。

するとすぐに井戸に一人の女の方が水ガメを持ってやって来ました。そうです、それがリベカでした。リベカは、旅人に見えたアブラハムの召し使いに気がつき、すぐにその召し使いが願うままに、せっかくなだばかりの水ガメの水を傾けて、大切な水を飲ませてあげました。それだけではありません。リベカは、その召し使いが連れてきたラクダたちに気がつき、ラクダすべてにも水をくんで飲ませてあげたのでした。当時、長い旅をする時は、馬でなくラクダを2～3頭使いました。1頭が疲れた時、旅人は他の1頭に乗り換え旅を続ける

ことができました。イエス様のお国であったカナンからウルまでは、砂漠や荒れ野が沢山ありました。水がない、太陽の光が強いカラカラの土地を旅しました。

しかしラクダはそのように暑く厳しい土地の旅でも大丈夫でした。2～3頭が力を合わせてアブラハムの召使いを無事ウルまで運ぶことができました。ラクダは沢山水を飲むことで知られています。ラクダは一度に100リットル以上の水を飲みます。リベカは、「すべてのラクダに水をくんでやった。」と聖書に書かれています。リベカ自身も、自分から進んで「たっぷり飲ませてあげましょう！」と言っていました。3頭のラクダに水をたっぷり飲ませるためには約300リットルの水を、リベカは時間をかけて運んだことになります。暑い中、文句一つ言わずに、リベカは水ガメを満たしては運び、ラクダたちに水を飲ませ続けました。リベカはこのように人と動物を労る優しい奉仕者でありました。リベカはアブラハムの親戚のベトエルの娘でした。

召し使いは神様に感謝し、リベカの家族に話し、リベカをイサクの花嫁としてカナンの土地へ連れて帰ることができました。イサクは一目リベカを見たとき、リベカが好きになり、二人は結婚して幸せな家庭を築きました。

優しい心で仕えましょう！人にも、動物にも！リベカのように、人間だけでなく、生き物すべてに優しくしましょう。優しい奉仕者として、皆さんが神様の御用に用いられ、神様の祝福を受けることを心から祈っています。

祈ります。

天の父、人も動物も御心に用いてくださる神よ、私たちが優しい心で隣人に仕えさせてください。あなたが造られた生き物すべてにも、優しくできますように。優しい奉仕者の上にあなたの祝福が与えられますように、お願い致します。この祈り、神の御子、主イエス・キリストの御名によって、御前にお献げ致します。アーメン。

2021年6月28日 小学校全校礼拝